

もみじ

-広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報-



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail : hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL : <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みすほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 高体連中国大会県予選（9/5 広島学院・9/6 安西高校～火山）報告
2. クライミングスクール（9/6 三倉岳）報告
3. 登山教室（2年9/13 岩渕山、1年9/27 権現山～阿武山～茶臼山）報告
4. 広島三峰会山行（9/20 西国街道）紹介
5. 岳連短信（寄贈御礼、岳連行事の今後の見通し）

1. 高体連中国大会県予選報告

（県高体連登山部事務局長 内藤 弘泰）

大会名：令和2年度 広島県高等学校登山大会（第60回中国高校登山大会県予選）

<概要>

9/5（土）広島市西区・広島学院高校

9/6（日）広島市安佐南区・安西高校 火山一帯

選手参加9校、73名 役員・監督22名

コロナ禍で6月の県総体、8月のインターハイが中止になり、今年度初めての公式大会が実施できました。それでも、感染症対策でテント泊や炊事は取りやめ、日帰りで2日間に分けての実施となりました。

1日目は広島学院高校の新しい講堂に集合し、登山の知識や天気図のペーパーテストを行い、それに関する講習会を実施。2日目は安西高校に集合して、火山（ひやま）への登山。登りはタイムレースで、主に下りは読図の審査。下山してから装備の審査を行いました。他の審査項目についてはすべて付与点での審査となりました。選手達にとっては十分に練習の成果が出せなかつたかもしれません、登山部顧問の先生方と知恵を絞り合い、議論を重ねて、なんとか大会を実施

でき、無事に終えることができたことが何よりも喜ばしい限りです。

上位大会である中国大会には、例年ならば6位以上が出場できるのですが、今年は感染症対策で、各県男女1チームずつ（開催県の山口県だけ2チームずつ）という制約となっています。代表校の広島学院高校・基町高校の健闘を祈ります。

<大会結果>

順位 校名 合計点

（男子）

1位 広島学院 99.5点 2位 修道 99.4点

3位 廿日市 82.9点 4位 基町 73.2点

5位 安西 69.1点

（男子二部）

1位 広島学院B2 98.5点 2位 修道B1 98.3点

3位 広島学院B3 98.0点

（女子）

1位 基町 84.9点

（女子二部）

1位 ノートルダム清心 87.2点

<選手感想文>

『中国大会県予選を終えて』

（広島学院高等学校2年 植木 豪）

「第一位、99.5点、広島学院。」その言葉を聞いた瞬間は、喜ぶのを忘れていた。しばらくして、仲間と顔を見合わせ、思いっきり笑った。そして心の中でガツツポーズをした。

僕はこれまでに3つの登山大会を経験してきた。県

総体と中国大会県予選、中国大会だ。高1で初めて県総体に出場した。悔いの残る負け方をした。絶対に勝つと挑んだ中国大会県予選。優勝できたが本大会では自分の甘さで負けた。結果は四位と惨敗だった。高2になり、今度こそは県総体で優勝し、群馬で行われるインターハイに出場しようとみなで意気込んでいた。しかし、コロナウイルスの影響で大会そのものがなくなってしまった。そして今大会である。県総体でかなえられなかつた思いはより一層強くなり、優勝すると心に誓った。今までの反省を全て活かしながら、トレーニングを積み、入念な準備をした。そして迎えた大会当日、ペーパーテストでは各自全力を尽くし、読図ではメンバー全員で議論した。タイムレースではお互に励まし合いながら走りきった。そして優勝することができた。

登山大会は一人で勝つことはできない。チーム4人が各自の力を持ち寄り、助け合うことで初めて勝利は手に入れられる。今大会では、準備も含めてそれができていたと思う。だからこそ優勝できた。中国大会では、広島県男子の代表として優勝杯をぜひ持ち帰りたい。もう準備は始めている。

『中国大会予選を終えて』

（広島市立基町高等学校 女子D隊選手一同）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため3月から約3か月間休校となり、その間部活動を含め、それまで当たり前だと思っていた学校生活を送ることが困難となりました。なかなか部員全員そろっての活動を行うことができない状況下で今後の活動に不安を抱くこともありました。しかし、今大会に出場させていただくことができ、部員一同、改めて仲間と共に協力しながら山に登ることの楽しさや喜びを感じることができました。そして、この度私たちは山口県で行われる中国大会に出場させていただくこととなり大変喜ばしく思っています。

登山活動を通し、私たちは様々なことを学んできました。仲間がいることのありがたみを学ぶことができたのもそのうちの1つです。中国大会も仲間と力を合わせて精一杯頑張ります。



1日目、広島学院講堂での講習会



2日目、火山登山中の読図ポイント



2日目、安西高校での閉会式

2. クライミングスクール報告

（指導部 塩田 徹）

第2回 9/6(日)

山城：三倉岳

人数：受講生 13名

2020年度第2回クライミングスクールは三倉岳六合目でクライミングとビレイをトップロープで、その後雨

の為下山し炊事棟でロープワークの講習を行いました。

＜受講生感想文＞

（蔭田 由美子）

4月の第1回目から5ヶ月ぶりの第2回目。新型コロナウィルス感染拡大による外出自粛で、外の岩にもジムにもいけない今まで、外出自粛が解除になって一度は練習にいけましたが、ほとんど何もしないまま講習当日を迎えてしました。緊張でドキドキしながら三倉岳に向かいました。雨が降らないうちに岩に登って、降ってきたら下山してロープワークということで、講習がスタートしました。まずは前回教えていただいたけど、すっかり忘れていたテーピングを再度教えていただきました。2人1組になって設定された4本を順に登るということでいざ1本目。しかし登り始めてすぐに文字通り手も足も出ない状況になって、あつという間に終了。結局4本とも高度感や落ちることの恐怖で動けなくなってしまい終了してしまいました。ビレイは最初やはり忘れていましたが再度教えていただきながらやってみると、途中から前回の感覚を思い出していました。でも緩くなったり逆に張りすぎたりでクライマーの動きに合わせるのは難しかったです。午後になって少し雨が落ちてきたところで下山してロープワークとなりました。ヌンチャクに通してあるロープを外したり、また通したりする動作を練習しましたが、ロープの角度によってはすごく難しかったです。できるだけ練習して次回に臨みたいと思います。

（神崎 直剛）

コロナのせいで、5ヶ月ぶりの教室再開でうれしい半面、初回に教わったことを忘れているので、前日の土曜日にとりあえず復習して臨みました。

今回は三倉岳6合目の岩場で4コースに分かれ前回と同じくトップロープで登りました。

1コースは2度あきらめかけましたが、下から励まされ、なんとか登ることができ、とてもうれしかったです。1度は腕の力がなくなり保持できなくなった時「手を下ろしてブラブラさせてみて、回復するから」とのアドバイスでした。次の場面は「クラックにフットジャムしてみて」とのアドバイスで登りきることが

出来ました。

2コースと3コースは、どうしても登ることができませんでした、要因は沢山あるのでしょうか、まずスタッフの方に指導して頂いた「シューズの爪先で岩の上に乗る事」「腕の肘を伸ばして体と岩の間に空間を作る事」が出来ていない為だと思いました。次回までにジムに行って練習しようと思います。

2時30分から、雨のため下の炊事棟でロープワークをしました。今回の復習や質問でしたが、その中のフォロワーの確保方法で、「確保器を使う方法」を見せて頂きました、今までムンタでやっていましたので、ビレー器とカラビナのセットの仕方がよくわかりませんでしたが実際に見せて頂いて、家に戻って指導部のロープワーク入門を見直して理解ができました。

今回、課題を登れず悔しいと思いましたが、今冷静になって考えると、一気に頂点を目指さず、1つ1つテクニックを身に着けて最後には頂上に立ちますので、これからも皆さんよろしくお願いします。

3. 登山教室報告

（指導部長 森本 覚）

第1回2年生 9/13(日)

登山形態：日帰り山行

山城：岩渕山

人数：7名（スタッフ含）

コロナ禍でカリキュラムを見直して今月から2年生の講習をスタートさせました。第1回目はロープワークの講習として岩渕山にいきました。主にフィックスロープの通過とラッペルを練習しました。

＜感想文＞

『初めの岩稜講習を受講して』

（登山教室2年生 吉部 恵理）

コロナ感染拡大下の4月、初回山行が目前で止む無く中止となり残念思っていたところ、7月に代替案での再開の知らせが届き、2年生は9月から岩稜歩きやビバーク訓練が行なわれるというので楽しみになる。

9月が来た。初めての岩渕山と岩稜歩き講習に臨んだ。前日の大雨は早めに上がり天候は曇り。駐車場に着くと22°Cと涼しいくらいで、心配していた通り雨もなく、青空も覗くよい一日になった。広場でロープワ

一クのおさらいを順調に終え、いざ岩渕山登山口へ。聞いていた通り、2年生になると歩く速度も上がる。山腹を進むと急峻な岩場が現れた。最初のロープが張られ、順番にフリクションヒッチで登る。まだ元気もあり、岩には見かけより手掛かり足掛けがありて登りは問題なく進めたような気がする。一点、カラビナが顔面に当たって痛かった記憶以外は。チェストハーネスの輪に止めたスリングが長過ぎたせいで以降は調整する。

受講生4人で待ち時間もたっぷりあるものの、ロープワークも2カ所め、3カ所め…と続き、肝を冷やすような箇所をいくつか通過する中、集中力や体力を消耗してしまった。特に下山時が困難で一カ所、人一倍の時間をかけてしまった。

いつも優しい講師・スタッフから厳しい指導の声が飛ぶ。スタートが出来ない焦りに困窮して気持ちが凹む。練習でこんなに苦労したことはなかった。時間短縮でサポートされ、必ずしも一人でいつも出来てなかつたという事実に気づく。

当日使う結びを見ながら何度も練習し、予習は万全にして来たつもりでいたが、崖の上で咄嗟に出来るものではなかった。カラビナが反対になったら…？ ムンターヒッチで頭の中がフリーズした。ロープが2本かけるところ、1本になっていて1mくらい下がって慌てる。耳たぶに小石が当たったのが気になって気持ちが逸れ、中間エイトノットさえ一瞬分からなくなった時も。簡単なのに。

下山して安堵して、平常に戻ると真剣な指導で叱られるることは有難いと思えるようになった。危ない場所で危ないことをしたら、ちょっとした油断やミスで大事故に繋がる。初心者もベテランもない。カラビナにロープセットは素早く行ない、ロープ確保の手は絶対離さないことは基本だと叩き込みたい。

同級生たちも積極的にアドバイスしてくれて有り難かった。切れ落ちる足元を見て、とても渡れない…と思った離れた岩にじわじわ足を進められた。遅れを取って足をひっぱらないように頑張ろうと思える。

今日いつくかの通過方法を実践した。登り方、下り方も一つの方法ではなく場所・状況を見て最適な方法を取ると聞く。少しずつ正しく身につけて行こうと思

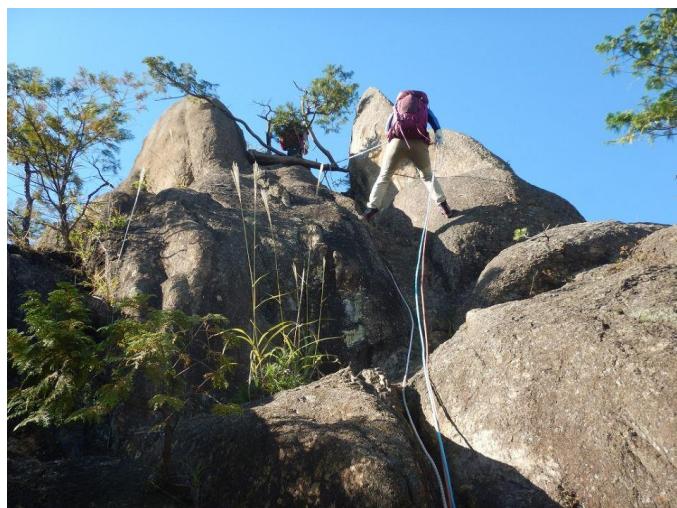
った。

道の側に秋の花ヌスピトハギが咲いていた。岩の上で順番を待つ間に、眼下に広がる眺めと秋の気配を感じる風が心地よかった。

下山後に立ち寄った石ヶ谷山渓「黒淵」という名所で岩の上から勢いのある流れを見て寛ぎ、心底ほっと一息つけた。黒い大きな岩にチョークの跡はボルダリングだろうか。

詰め込まれた頭の知識を整理し、出来なかつた箇所を抽出し、実践を想定しながら次回までに復習しておこうと思う。また所属する山岳会で習える機会も利用したい。

今月も充実した講習会を有り難うございました。来月もよろしくお願ひいたします。



(写真提供 森本 覚)

第4回1年生 9/27(日) 登山形態：日帰り山行
山域：権現山～阿武山～茶臼山
人数：12名（スタッフ含）

今回は少し気候が良くなっているので歩行速度を意識した計画をしました。行動は今回も1、2年合同で2班に分かれて行動しました。少し歩行技術が必要な箇所もありましたが計画した時間内で、予定のルートを歩く事ができました。（森本）

＜感想文＞

『9月の山行を終えて』

（登山教室1年生 カモト）

前回8月の教室では、初期の熱中症になつたり分岐を間違えたり、目標が達成できなかつた点が多く、今回は少し対策をして臨みました。

まず熱中症対策として山用ボトルを購入しました。初回の装備説明ではT社の紹介がありましたが、調べるとM社でもだいたい同じ仕様のボトルがあり、YouTubeでは両者の比較や、M社の性能試験映像があり凄く悩みました。結果2000円安いM社の900mlボトルを購入、当日は氷を満タンにしてザックに詰め込みました。8月の登山と違い気温が低く発汗も少なめでしたが、それでも阿武山山頂で飲む冷たいコーラの味は、もっと早く購入すべきだった、8月にこれがあれば熱中症にならかっただかも？と思える美味しい味でした。

次に地図読みの対策として、事前にルートを想像するイメージを実施しました。北阿武山の下りルートで尾根から谷に変わる箇所など、イメージどおりの箇所があったのは嬉しかったです。

謎だったのはCLから共有されたマップの茶臼山下りです。地理院地図にそこの記載が無く、茶臼山へ登る時に下り分岐を探しながら登ったのですが見つかりません。結局藪漕ぎしなくとも下山ルートへショートカットできる斜面状況だったが正解でした。この下り斜面非常に滑りやすく滑るのが好きな私としては楽しめました。「茶臼山は踏み跡が曖昧」とCLから注意があったとおり、もし自分が先頭だったら登りもくだりも100%迷っていたと思います。

最後に行動食について。今回は遠征を想定し、パンなど日持ちのする市販品で揃えてみました。Gドライブの資料を参考に1800kcal用意し、摂取できたのは1000kcal。特にシャリバテの症状は出ませんでしたが、もっと取るべきかどうかまたご指導ください。ちなみ

に登山教室に参加すると毎回2～3kg減量します。

いろいろな不安をかかえて始まった登山教室も4回目となり、要領やメンバーもわかり、不安は減り楽しみのほうが大きくなりました。同時に地図読み技術が未熟という課題も見えてきましたので今後経験を積んでいきたいと思います。今回も有意義な山行をありがとうございました。引き続きよろしくお願ひいたします。



（写真提供 森本 覚）

4. 広島三峰会山行紹介

去る9月20日、広島三峰会の例会山行に同会以外の連盟会員4名がビジターとして参加しました。三峰会からの報告を紹介します。（西部）

令和の西国街道 歴史探訪

八本松～大山峠～瀬野（令和2年9月20日）

（広島三峰会 小方 重明）

今日の西国街道歴史探訪は、三峰会山仲間とビジタ一合わせて13人でJR八本松駅北口から「大山峠」を越して瀬野駅まで歩く予定だ。私(小方)が担当リーダーでガイドの先導はサブの湊さん。八本松駅に8時15分集合。福永やす子さん(ビジター)が準備された「瀬野 歴史散歩マップ」が配布され、瀬野駅までの行程と歴史の見どころを確認して、8時30分に出発した。

西国街道沿いを西に歩き、JRの踏切を渡って間もなく最初の街道スポット「長尾の一里塚」が見えてきた。一里塚は1604年に江戸日本橋を起点に1里ごと街道の両側に設けられた円墳状の塚で、塚の上には楓や松が植えられ旅人の目印にされていた。今では往時の姿で一里塚を見ることはできない。ここに在ったと標された一里塚跡の石柱が立っているだけだ。往時を偲ぶにはちょっと寂しい。だが、ここの「長尾の一里塚」はユニークで想像するだけで楽しい。

江戸時代、「長尾の一里塚」は街道の両側にあって、双方の塚に松が植わっていたという。その枝ぶりは双方合わせて八本の枝が延びていたことから八本松の地名が付いたといわれる。『芸藩通志』には「塚松北飯田村の分男松根一本にて四本に分かれ、南当村の分女松根一本にて四本に分かれ、往還の中にて双方より枝行きあいしが、男の松ことごとく女松の上に持たれ、陰陽和合の形をあらわし誠に珍しき松にござ候」とある。

国道2号線を渡って、これから西国街道で江戸時代もっとも難所とされた「大山峠」を目指す。大山峠越えは今回で2回目。参加メンバーの3人が昨年11月に下見調査で歩いているので迷うことはない。問題は一昨年の西日本豪雨(2018.7)で、山肌が流されて地形が変化したことだ。今回も昨年同様、難儀を強いられるに違いない。だがそこは山ヤの猛者そろいだけに、

むしろ歓迎だ。

舗装路からやがて山道となり、落ち葉を踏みながら大山峠への山道を歩いて間もなく、突然、「オオ!!…」と驚きの喚声があがつた。山が裂けたかの如く豪雨の傷跡が生々しい。山道は完全に消滅した。豪雨で深くえぐられた河原を横断して、倒木の壁を巻いて藪に突入。やっと峠に通じる道をたどって10時半に「大山峠」に到達した。



豪雨の爪痕 2019.11撮影

大山峠には「旧山陽道大山峠」の標石、その横に大山峠の説明板が立っている。ここで休憩をとり、最初に国枝さんが以前テレビ放映されたシンクロスイミング原田早穂さんが「街道でくてく歩き75日間(大宰府～京都～平城京)」踏破で、大山峠が画面に映し出されたエピソードを紹介された。その後、私が「西国街道豆知識」を配布して、大山峠説明板の内容をまじえながらワンポイントレッスンのレクチャーをした。



日本書記崇神天皇(3世紀前半)の条に「西道」の記述がある。これは後の旧山陽道といわれ、この峠道は弥生時代に既にあったことになる。その後、旧山陽道は京と太宰府を結ぶ官道となり、大山峠付近に大山駅の駅家(うまや)が置かれた。この峠は参勤交代の大名が休憩した憩亭があった所で、平素は村人が草鞋や入り豆を売っていたという。大山峠は元寇の急変を知らせる早馬、幕末の志士、吉田松陰や高杉晋作らもこの峠を駆け抜けていった歴史を刻んだ峠であった。

大山峠を出発して少し下ると右手に「旧山陽道大山清水」の碑が立ち、その横に「瀬野川支流 大元谷川源流」の木柱も立っている。ここは清水が湧き出て、昔、旅人が喉を潤したと伝えられている場所だ。

旧山陽道
大山清水碑



さらに下ると倒木や荒れた山道となった。難路を右往左往しながら、藪の中で墓石の残骸を見つけた。「大山刀鍛冶の墓跡」だ。説明板によると、大山刀鍛冶は筑前博多刀工の一派の守安という人。建武年間(1334~1338)ここに土着したのが始めて、その屋敷跡と鍛冶場跡の遺構が昭和20年までここにあったが水害で流された。今はその跡も見つからない。大山刀鍛冶は八代まで続いたが、この場所には初代のみが住み、二代目以降は里に降りて下大山に移り住んだという。



大山刀鍛冶の墓跡

沢すじを下って行くと、水害で山道が大きく削られ、岩がごろごろしてきた。一昨年の豪雨災害の激しかったことを、あらためて知る。やがて「旧山陽道賀茂安芸郡境碑」が立つ開けた所へ出た。ここは賀茂郡と安芸郡の境界で、お迎えの場であり、伝達の



芸郡境碑」が立つ開けた所へ出た。ここは賀茂郡と安芸郡の境界で、お迎えの場であり、伝達の

場だったという。賀茂郡や安芸郡のお役人はここで、隣の郡のお役人さんに引き継いだと伝わっている。ここで一服して水分補給をとる。



豪雨で削られた山道と旧山陽道賀茂安芸郡境碑

この辺りに、どんなに権力のある人でも駕籠(かご)を降りなければいけなかったと言われた「代官降ろし」の碑があると聞いていたが、その碑が見当たらない。さらに「瀬野馬子唄の看板」も見当たらない。一昨年の豪雨で流されたのであろう。まもなく大きな砂防ダム工事現場に出で、やがて民家が現れ一番奥の大山集落に出た。住民と出会い、挨拶すると「一昨年の豪雨で家が流される寸前だった、この地区で4人の犠牲者が出て」と話された。

やがてJRのガード下をくぐると国道2号線に出た。昼近くになると残暑も厳しい。額に汗が流れはじめた。豊田啓子さんから「水分補給をしっかりとらなければダメ!」ときついお叱りを受ける。Zさんが疲れたか遅れ始めた。「Zさん、大丈夫?」「タクシーを呼ぼうか」と声をかけると「大丈夫だ!」という。瀬野川を左岸沿いに歩いていくと、左手石垣の上に刻まれた「万葉歌碑」が立てられていた。

真木の葉の しなの勢(せ)の山 忍はずて わが越えゆけば木(こ)の葉知りけむ (万葉集卷3291)
作者は小田事(をだのこと)とある。ここで休憩。

万葉歌碑の前で休んでいると、国枝さんが「西国街道 万葉歌碑(瀬能山)」の標識を眺めながら、瀬野の地名は瀬能山に由来しているのでは・・・と語った。帰って文献で調べると、この歌の瀬能山の所在は、瀬野の山としてこの付近で詠まれたとある。「芸藩通志」にも「せの山は紀伊国にあるが、この歌のせの山は安芸国の上瀬野村である」と記され、さらに和歌山県伊都町背の山もあり、諸説ありでいざれが正しいか定かでない。他、瀬野には「生石子(ういしご)神社」があつて、ここが瀬野の地名発祥の地だと記されてある。いささか頭が混乱してきた。



西国街道 万葉歌碑(瀬能山)の標識

国道を越えて瀬野川に架かった久井原橋を渡り、川沿い右岸の西国街道を進むと「吉田松陰 詩詠之地」の説明板があって、七言律詩の漢詩と松陰の姿絵が描

かれていた。吉田松陰は萩から山陽路に出て西国街道を何度か往来しているが、安政5年(1859)、安政の大獄により江戸へ護送される途中この地で漢詩を詠んだ。この5ヶ月後に30歳で刑死した。



吉田松陰 詩詠の地

集合写真を撮って西国街道を川沿いに西に進むと、右側の石垣のたもとに「涼木(すずむき)一里塚跡」の石碑が立っていた。時刻は正午、さすがに空腹と疲れた足がこたえてきたが、嬉しいことに福永やす子さんが昼食の休憩所に中大山集会所を手配してくれていた。福永さんは上瀬野中大山に実家があって、弟の嫁さんが集会所で休憩がとれるようテーブルや腰掛を用意、そして冷房を効かして冷蔵庫にはカルピスを2本も冷やしてくれていた。気遣いに感謝!

感謝!

中大山集会所



午後、歩きはじめて間もなく右手に太田家墓地歴代の墓があった。墓碑には「先祖 大山鍛冶市左衛門之墓」と刻んでいた。太田家は大山刀鍛冶の末裔にあたるらしい。

二代目重守以降八代目まで260年間作刀を続け、たたらと鍛冶場は、この奥にあったと説明板に記されてある。



先祖 大山鍛冶市左衛門之墓

さらに瀬野川左岸を西国街道沿いに進み、一貫田の町に入ると「龍善寺」があった。門をくぐると住職さ

んが出てこられた。結婚するまで地元に住んでいた福永さんが、事前に寺の案内を住職に頼んでおられたようだ。

この寺は治安2年(1022)に僧空心律師が開基したというから歴史のある寺だ。境内には漂白の俳人といわれた

「種田山頭火」の句碑があった。

山頭火の句碑



一歩づつ あらわれてくる 朝の山 山頭火が旅の途中、一泊して瀬野の印象を詠んだという。この句碑は瀬野・熊野跡の分かれ道に立っていたというが、最近、龍善寺に移されたという。さらに住職の説明によると、明治13年本堂再建のおりに「広島藩油御用所」で使用していた石臼を主柱の礎石に23個も使用されたそうだ。数の多さに驚いた。

住職にお札をといって、この後地元に詳しい福永さんの先導で「広島藩油御用跡」を訪ねる。宝永6年(1683)野村家四代目孫兵衛正房が水車を利用した油搾場を作り、燈油の製造販売を始めて広島藩の油御用所となった。燈油は船便で大阪方面にも輸送されて、一貫田は大いに栄えたそうだ。油御用所跡は、今でも水路の落差を利用して石垣が50メートルにわたって残っていた。繁栄していた往時が忍ばれる光景だ。



広島藩油御用跡

一貫田は宿場町の「間(あい)の宿」と言われ、江戸時代旅人の茶屋が立ち、大名の小休所もあった



間の宿 一貫田を散策

と伝えられている。白壁や蔵など古い屋敷が残る風情のある町だ。町並みを歩いていると路傍に「右、海田市 廣島 左、熊野跡 吳 方面」と刻まれた道しるべの石碑があった。さらに「旧山陽道落合の一里塚跡」の石柱も立っていた。一里塚は今日これで三つ目を数える。

道しるべ「右、海田市 廣島
左、熊野跡 吳」



旧山陽道落合の一里塚跡

三峰会西国街道探歩隊 13名は、瀬野川に架かる丸橋を渡って打上げ予定の落合公園にゴールした。到着は14時45分。途中遅れていたZさんも最後の踏ん張りを發揮して無事踏破。

落合公園で打上げだ。シートを広げると餅・煎餅そして旬の栗の渋皮煮がリュックから出された。栗の渋皮煮は小田里子さん（ビジター）が昨夜時間をかけて調理されたらしい。カルピス（2リットル）・缶ビール（3本）・他ドリンクをコップに汲んで皆で乾杯した。

「お疲れ様でした！」。今日の西国街道探訪は、難路の大山峠越えがハイライトだった。今日はここまで。

行程 12キロ。所要時間 6時間 15分。歩数 19,000 歩。



（次頁に「行程図」を掲載）

5. 岳連短信

1. 寄贈御礼

三原山の会『筆影』No. 487（10月号）

広島山稜会『峠通信』第736号（2020.10月）

広島山岳会『山嶺』第862号（R2.9月）

広島やまびこ会『やまびこ』No. 772・773（10・11月）

福山山岳会『会報』R2.10月号

2. 岳連行事（県民ハイキング・岳連例会山行・来年度の比婆山スカイラン）の今後の見通し

県民ハイキングについては、11月まで中止が決定されていますが、12月（6日・宮島）からは再開する方向で準備中です。

『もみじ』前号で「10月頃からの再開を検討中」とお知らせした岳連例会山行のほうですが、今年度は休止のままとなるようです。

関連して、個人会員の『ありんこチーム』の活動が8月後半から月1回程度始められています（9月の石立山を次号で紹介予定）。ありんこチームの活動については、顧問の岡谷さんにお問い合わせください。

来年度の第29回比婆山国際スカイランについては、例年であれば10月に実行委員会を発足させて準備を進めるところですが、コロナ禍に加え、「県民の森」指定管理者『比婆の森』の破産という状況で、実施の見通しが立ちませんので、とりあえずは5月開催は断念し、今年度内に指定管理者が決まれば秋開催を検討するということにしております。

編集部より

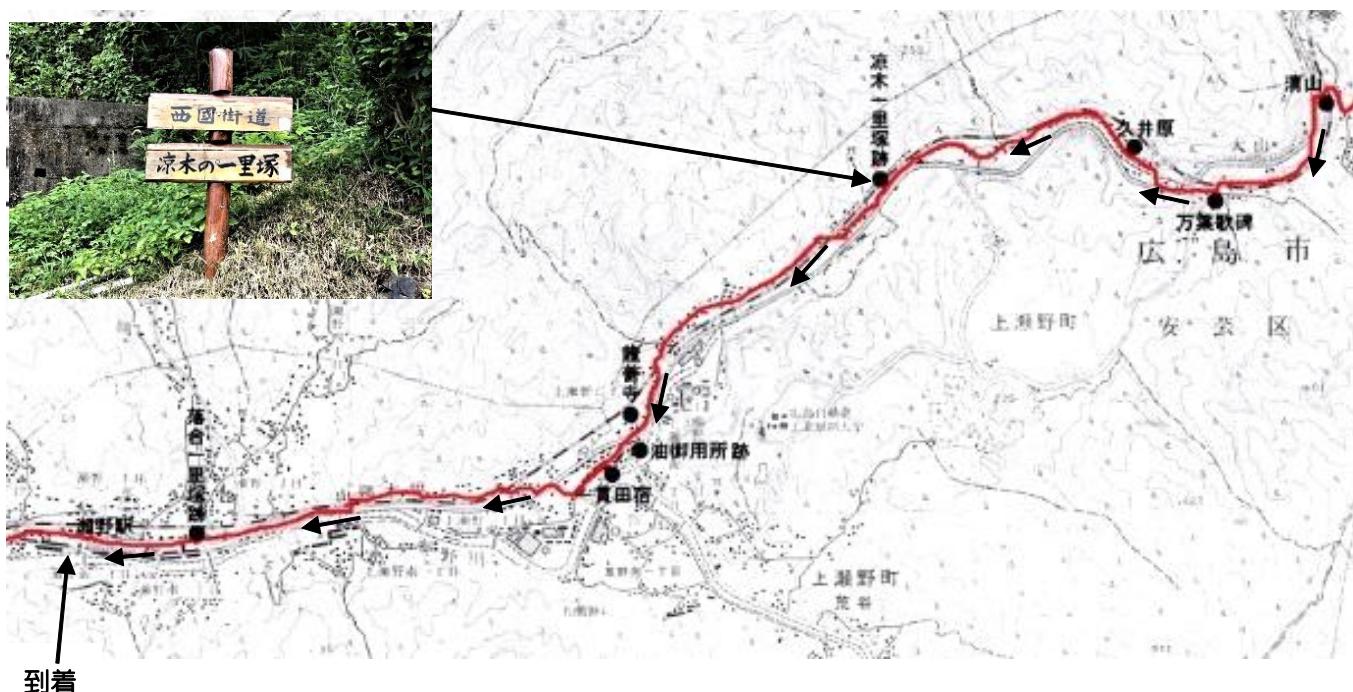
○この会報は、皆さんのお提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽に寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。隨時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。

広島三峰会 西国街道歴史探訪
八本松～大山峠～瀬野 9/20

行程図



地図：「西国街道を行く 街道ぶらり旅 安芸・備後路」引用